

年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100744		
法人名	社会福祉法人柏友会		
事業所名	グループホーム桑寿園		
所在地	〒038-3104青森県つがる市柏桑野木田字若宮255番地1		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 6 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に職員全員で理念唱和することで、意識を高め、理念にもとづいた支援を実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉祭りと一緒に夏祭りや餅つき、念仏講で地域の方々と交流し、こども園、小学校の行事も毎年交流することが恒例となっていた。しかしコロナ禍のため、自粛中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族が面会に来た際に認知症に対する相談に応じている。中高生のインターシップも積極的に受け入れ認知症に対する理解や支援について学んだり交流に努めている。今年も新型コロナウイルス感染予防のため面会等は自粛しているが、要望があった際は感染予防された面会室で対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、市からの指示を仰ぎ、書面会議を実施。構成員に対し、議事録、資料を送付し事業所に対する助言、要望、評価等を受け、議事録に詳細後その議事録を市の方へ提出している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回市の担当職員が参加していたが、今はコロナ禍のため書面や電話で相談や助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束廃止委員会のメンバーとなり、3ヶ月に1回現状確認をしながら会議をしている。職員へはチェックリストを用いたり研修会を行い、禁止の対策となる行為を理解しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度から虐待対策委員会を立ち上げ、マニュアルや指針の作成を行っている。年に2回以上の研修会を行いながら、禁止の対象となる行為を理解し、3ヶ月に1回現状確認をしながら意識を高め、日々業務に当たっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修を行い、今年は問題形式の研修をして、深く考える機会を設けながら、全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や契約内容の改訂時には十分な説明を行って同意を得ている。住み替えや長期入院で退所する際にもスムーズに住み替えが出来るよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本来は面会や日常時において意見や要望が言えるようコミュニケーションを図っていたが、コロナ禍の為家族へは電話で相談したり意向を伺い、玄関には意見箱を設置し気軽に意見を述べられるようにしている。運営推進会議で入居者・家族代表の意見を運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や運営会議の場で、提案出来る機会を設けている。又、個別の面談で業務上の問題点や悩みの聞き取りを行い、前向きに業務出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断や腰痛検査の他に、ストレス検査を実施している。有給を取得しやすいよう、各月に振り分け希望休みがとれる環境作りをしている。各自の業務態度や目標達成度を考察しながら評価を行い意欲へつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の為、新人研修や職員の質の向上を図り、内部や外部研修はオンラインで受けている。又、資格取得に向けて理解を深め、実務者研修に参加させたり、ケアマネ試験の為勉強会を行っている。技術のレベルアップ研修や試験を行い技術向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び西北五グループホーム協会に加盟し、総会や研修会に参加していたが、コロナ渦のためリモート研修に参加し意見交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネージャーから情報提供を得て、本人・家族と面談を行う。希望や思いを受け入れ必要な援助ができるように、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から家族の願いや不安に感じている事等の情報を収集し、ケアプランにも反映している。また電話等で生活状況や、思いを知ることによって不安や悩みを少しでも解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が安心して生活するために、必要なサービスについてその都度話し合いをしている。ケア会議を行い状況の変化に応じて、支援の変更等を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を念頭におき、これまでの生活歴や経験を教わる事で、感謝の気持ちを日頃から声に出して伝えている。また生活の中で、毎日の軽作業や役割を一緒に協力する事で良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染の為、ご家族との面会は特養の面会室や各ユニットの窓越しで行っている。ご家族には、電話連絡や毎月のお便り広報、また利用者の方々が元気で過ごしている写真を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染の為、外出や外泊地域の行事は自粛している。どうしても面会したいと希望があれば事前に連絡して頂き、特養面会室で面会する事も出来る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や認知症の理解を深め、利用者同士の関わりがスムーズに行われるよう配慮している。また、関わりが上手く出来ない方には、職員が介入し交流を持てるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えや入院でサービスが終了となっても、いつでも相談に応じられるようにしている。本人や家族の参加を促しているが、コロナウイルス感染の為、現在は中止している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、一人ひとりの思いをアセスメントしながら、情報共有を図り対応している。本人も参加し担当者会議を開催し、意向の確認をしている。日々の関わりの中での言動や表情を記録し把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーから情報収集し、センター方式を作成している。生活歴や家族・本人に聞き取り変化などをセンター方式へ記入し、職員が周知出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った生活リズムで過ごして頂けている。軽作業や魚の餌やり・雑巾作りなどして頂き、本人の出来る力を引き出せるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見も踏まえ、状態に変化があったときは随時計画の見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。日々の関わりの中で本人の思いを察し、家族からは面会時や電話連絡時に意向を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化に気づいた時は介護計画の見直しをケア会議で検討し、家族の同意も得ている。全職員が確認できるように、日々の様子や気づきは個別に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は事前に連絡し、医師の指示のもと代理受診などで対応している。本人や家族の要望に応じ、通院・外出・外泊などの緊急な対応はコロナウイルス感染で中止している部分もあるが職員が対応できるものは柔軟に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大のため、保育園や小学校の招待での訪問や婦人部・老人会などの訪問が中止となっているが、手紙のやり取りなどで繋がりを継続している。コロナウイルス感染の対策をおこないながら、特養と合同避難訓練や保育園の防火教室に数名の利用者が参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時から通院している病院を継続して受診の支援をしている。家族には、面会時や電話連絡時など近況報告と合わせて報告している。また、法人の嘱託医があるためかかりつけ医への変更も可能であり、必要に応じて家族と連絡を取りながら専門医へ受診など適切な支援体制を整えている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や急変時には、適切な受診や看護が受けられるように支援をしている。グループホーム看護師に状態報告出来るような24時間体制がとられている。看護日誌を作成して、全職員が目を通して情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族の不安を軽減するために情報を提供し、主治医に相談している。今後の対応について話し合いを行い、退院時スムーズに受け入れるように連携している。医療的ケアがひつような場合は適切な施設が利用出来るよう地域連携室と相談しながら、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針・マニュアルを作成し、入居時に看取りについて説明している。重度化に伴い看取りケアの重要性が高まってきた時点で再度家族や主治医を交えて話し合いの場を設け意向を確認している。その中で、事業所が対応可能なケアの内容を説明し安心して納得できるよう最後が迎えられるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に直ぐ対応できるようマニュアルを作成し目に付きやすい場所へ設置している。研修・感染症対策委員会や応急手当や感染症・防災などを実施し緊急事に備えて確認している。マニュアルの見直しも行い、感染予防対策キッドを準備して、職員一人ひとりが対応出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養との合同避難訓練は年に2回実施している。また、グループホームでも年間計画を立てて避難訓練を実施している。災害についてハザードマップを活用したり、災害時対策委員会を立ち上げ、利用者・職員で確認を行い、災害について意識づけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を把握し、その人にあった声掛けを心掛けている。入浴、排泄部会で研修会を行い尊厳やプライバシーを確保し職員全体で意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況を把握し、会話の中から思いや希望を聞き取り、質問を工夫して自己決定できるよう働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身の状態に合わせてその日、その時々状況や本人の思いに添って支援している。また、出来るだけ個別の対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院や床屋へ出掛けていたが、コロナ感染予防の為、出張で来て頂いている。化粧道具を準備し、個々におしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや食器拭きを手伝って頂いたり、野菜と一緒に収穫して採れた野菜を調理し食事に提供している。毎食の献立を掲示し朝の活動時間に伝えている。季節毎の食事会や誕生会等には好みの物や旬の食材を使うことで喜ばれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のバランスのとれた献立に添って食事を提供し、食べた量や水分摂取量は個別に記録し把握している。体調不良で食欲のない方には調理法の工夫や補食、経口栄養剤を接種して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後のうがいや残菌のある方は歯磨きをして頂き、食事への意欲や清潔保持に努めている。義歯の不具合や痛みなど生じた場合は馴染みの歯科へ通院介助を行っている。また歯科訪問診療も利用出来る体制をとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、習慣やパターンに応じたトイレへの声かけや誘導を行っている。排泄部会やケア会議にて一人ひとりの排泄状況を話し合い、必要に応じて見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	規則正しい生活を心掛け、日々の運動を行っている。排便が困難な人には腹部マッサージを行い促すようにしている。排便の確認が出来ない時には担当医に相談したり、薬を処方して頂きコントロールしている。水分を摂りたがらない方には、好みの物やオリゴ糖を使用したり、水分量を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	毎日入浴する事ができ、決まった入浴日はない。利用者の希望に応じ、週2回の入浴が出来ている。体調不良で入浴出来ない方には、清拭や手・足浴で清潔保持を図っている。入浴部会を設け、入浴を楽しむ事が出来るように、入浴剤や季節に合わせた飾りを貼り付け、気持ち良く入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの意思を尊重し、就寝介助や休息を行っている。夜間の排泄用品は、個々に合わせた物を使用し安眠に繋げている。居室の温度や湿度の変化に気をつけて、寝具の調整やその時々状態に合わせて休息を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルに閉じ、いつでも確認できるように設置している。服薬の見本を作り、服薬時は名前と顔を確認し介助を行っている。薬の処方に変更があった時は申し送りを行い、状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る力として、洗濯たたみや茶碗拭き・盛りつけ等を手伝って貰い、満足感が得られるように支援している。手作りおやつや誕生会では、四季の食事会を計画し、利用者が楽しんで貰える行事計画している。クラブ活動では、作品づくりやレクレーションを行い利用者と職員と一緒に喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者や家族の希望に合わせた日程調整を行い買い物や外食・床屋・自宅等に出掛けている。いつでも利用者が気兼ねなく、外出できるように支援しているが、コロナ感染予防の為自粛している。戸外へのドライブで車中から季節を感じて貰い気分転換を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や能力に合わせて金銭管理が出来る方には所持して頂いている。本人と一緒に買い物に出かけたり、常に不安がある方には、自分の側に置いて安心して貰えるように支援している。月1回は本人と所持金の確認を行うことで不安にならないように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には電話を使って頂き、家族と連絡が取りあえるように支援している。電話の出来ない方にはやり取りが出来るようにしている。また、手作りの年賀状と一緒に作成し家族に送る事で楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心してもらえる色使いや季節のお花や植物・作品作り、季節感を感じて貰えるようにしている。室内の温度や湿度調整など、色々な面に置いても心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士が席を移動し、楽しく会話が出来るようにしている。独りになりたい時は居室やホール内でいつでも外の景色が眺められ思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真・御位牌等、家族と相談し馴染みのある空間作りに努めている。また、利用者と一緒に作った作品や行事・外出等の思い出の写真を飾り、家族を身近に感じられる環境づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内・ホール・トイレ等の生活動線や転倒防止を考え家具等の配置や明るさ・目印等で安全に移動が出来るようにしている。玄関での靴の履き替えも椅子を設置しスムーズに履き替えが出来るようにしている。		